

- 議長（河野） 6 番、十河茂広君。
- 6 番（十河） はい、議長。
- 議長（河野） 十河君。
- 6 番（十河） はい。6 番、十河です。
- 議長（河野） なお十河君は一問一答であります。一問目の質問を許します。
- 6 番（十河） はい、ありがとうございます。

議長に発言の許可をいただきましたので、通告に従い質問をさせていただきます。公明党の十河です。よろしく願いをします。

令和3年3月28日にグランドオープンした道の駅「滝宮」。新型コロナウイルス感染拡大の最中のオープンとなりました。あれから2年余りが経過して、着実に集客数、売り上げが伸びているとの集計報告がございます。来客数においては、令和3年と比較して4年度はほぼ横ばいの45万人ではありますが、売上げに限れば3千万円程のプラスになっており、約7億円の売上報告になっております。

本年令和5年については、5月に新型コロナウイルス感染拡大が5類相当の位置付けになったこともあり、ゴールデンウィーク、夏休み等で客足、売上げも上がっている事と思います。残念ながらレストランテナントがまだ運営できていない状況ではありますが、指定管理者の穴吹エンタープライズ様と協議を行い、綾川町らしいテナントオープンに向けて頑張っていたきたいと思っております。

そのような状況下の中でも、町長が願っていた地方創生の拠点施設として着実に前進していると感じております。

本年4月には、ひだまり公園あやがわ、通称ヤドン公園もオープンに至り、県内はもとより県外からの交流人口の大幅な増加がみられました。道の駅のテナントにおいても、ヤドンにコラボした商品の開発、売り出しを行い集客に貢献していただいたと思っております。また道の駅においてのイベント開催（綾バル）も盛況であり、今後の企画によっては更なる賑わいが見込めると想像できております。

そこで、現在の道の駅の様々なイベントを行うにあたってどうしても必要になってくるのが、駐車場になるかと思えます。店舗前、国交省側、第2駐車場あわせて約150台程あり、大型車4台分、身障者用も5台分区画しておりますが、大型車スペースについては、事前連絡があれば確保しておくこともできますが、連絡がない場合はフリーパーキングとして現在、利用しています。身障者用パーキングにも、店舗近く近くに止める所が無いのでしょうか、健常者の方が平気で駐車しているのも見受けることがございます。また国道沿いにある道の駅にしてはトラックの駐車がほぼほぼございません。なかなかトラックドラ

イバーの方々が休憩所に使うのに適していないと感じているのかもしれませんが。

道の駅「滝宮」は防災拠点にも指定をされています。あわせて一時避難所の役割もあり、有事の時を考えると現状町内での避難となると車での移動が多いと思われます。避難所になった時に賄えるだけの駐車場の広さであるのかが疑問になってまいります。

今後の集客数増加、防災拠点としての機能を十分に果たしていくための駐車場整備について以下2点お伺いいたします。

①集客、売上げの現状値に対して、当初の目標に対しての達成率はいかほどなものか。綾バル等のイベントが成功しているが、次なる企画を何か計画しているのか。

②近い将来、現在の駐車場が手狭になり、大型バスの乗り入れが活発になった時の対策は考えているか。また府中湖スマートインターチェンジがフルインターチェンジになった時に県外からの集客がかなり見込まれるが、現状の大型車スペースだけで賄えるのか。

以上、答弁願います。

○議長（河野） 前田町長。

○町長（前田） はい、議長。

○議長（河野） 町長。

○町長（前田） はい、議長。

○町長（前田） ご質問にお答えをいたします。

1点目の、集客・売上げの目標に対する達成率であります。当初目標を来客数50万人、売上高10億円と設定をしておりました。令和4年度実績が、来客数は約45万人で、達成率が約9割、また、売上高は約8億円で達成率が約8割となっております。

また、今後のイベントにつきましては、「綾バル」「綾川PROJECT」をブラッシュアップして継続する考えであります。次なる企画につきましては、指定管理者のほうで、集客イベントをしっかりと企画して実施するよう指導してまいります。

2点目の、大型バスの乗り入れ対策であります。現在、大型バスの駐車スペースは、施設の前面に3台、国交省側の駐車場に1台の計4台分を設置しております。事前連絡なしで来場された場合、一般車両により駐車できない場合もありますが、ホームページ等でも周知し、道の駅への事前連絡により、台数分を確保するよう運用しており、今のところ大きな問題なく対応できているとのことであります。

なお、将来的に大型バスの来場数が増加し、慢性的に不足することが見込ま

れる場合は、大型バス駐車スペースの増設について検討してまいりたいと考えております。

また、府中湖スマートインターチェンジにつきましては、上り・下りのいずれの方面への出入りも可能な、現在フルインターチェンジとして整備されており、今年度から、12mを超えるセミトレーラーなどの通行を可能とするための車長制限の解除について、その可否を含めた検討を現在行っているところであります。

大型の観光バスの規格は、その車長が12m以内となっているため、車長制限の解除が、大型観光バスの増加に直接的に影響することは少ないものと考えております。

以上、議員の質問の答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○6番（十河）はい、議長。

○議長（河野）十河君。

○6番（十河）はい。

○6番（十河）再質問をさせていただきます。

道の駅、何の行事においてもそうだと思いますが、利用者の声が発展につながっていくすべてだというふうには思っております。そのようなことを踏まえて、利用者の方の声が、どのような声が、庁舎の方に届いているのか、また、その声の中に、駐車場に関する声がどの程度あるのかというのを、お聞きをさせていただきます。お願いをいたします。

○議長（河野）福家経済課長。

○経済課長（福家）はい、議長。

○議長（河野）福家君。

○経済課長（福家）十河議員の再質問にお答えをさせていただきます。利用者からの声というのは、意見箱と言いますか、そういうのは設置をしております。指定管理者の方で、それは集約をしております。その中で駐車場に関してなんですけれども指定管理者の方から聞くところでは、満車で駐車場に停められないなどの苦情は受けてないということでありました。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○6番（十河）はい。議長。

○議長（河野）十河君。

○6番（十河）はい。あっさりした答弁ありがとうございました。

最後、これ質問じゃなくて要望になりますが、これ我々議員の仲間におきましても声が出ているところでございます。町長の耳に、また、議長の耳には入

っているところかというふうには思いますが、先ほどインターチェンジの話がちらっと出ました。出させていただきました。その名称でございます。せっかく香川県がポケモン、ひいてはヤドンを推している中で、府中湖インターチェンジ、今その名称でございますが、ヤドンをインターチェンジという名称にしてもこれ面白いのじゃないか、というお話も出ております。その辺り含めて、またご協議願いて、ご提案を様々なところにしていただければ、ありがたいなというふうには思っております。要望でございました。

○議長（河野）十河君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○6番（十河）はい。議長。

○議長（河野）十河君。

○6番（十河）はい。議長。

○6番（十河）2問目の質問に移らせていただきます。「子どもの眼の健康について」お伺いをさせていただきます。

コロナ禍におきまして、GIGAスクール構想が加速されていく中、本町においても更なるタブレット端末の活用が活発になり、さらにICT教育が進化されていく事に大きく期待をしているところでございます。

しかしその一方で、児童生徒一人1台端末の環境下で心配されることは子どもたちへの心身の健康面についてだと思っております。今回はICT化における子どもの眼の健康予防についてお伺いをいたします。

文部科学省の2020年度学校保健統計調査によりますと、裸眼視力1.0未満の児童生徒は増加傾向にあり、小学校37.52%、中学校58.29%といずれも過去最高となっているとあります。

学校現場においては、GIGAスクール構想による一人1台端末の学びがスタートしております。また文部科学省では、紙の香りの良さや紙の役割を踏まえつつ学習者用のデジタル教科書についても普及促進を図るとしております。これらの状況を踏まえ、文部科学省は、眼科医等の専門家と学校関係者による子ども達の目の健康に関する今後の対応についての意見交換を行う懇談会が開催されているとの事です。その中で、文部科学大臣は「子どもの視力低下は以前よりその傾向が見られるものの、学校のICT化により一層悪くなることのないよう、最新の医学的知見に基づいた対応が極めて重要だと考えている。新たな知見が得られれば速やかに学校関係者に伝える。」との見解を示しております。

この30年程でパソコン・ゲーム機が普及し、各世帯でのスマートフォン保有率は約83.4%に達するなど、スマホやタブレットが急速に暮らしに浸透しました。かつてないほど近くを見る生活になっておりますが、目の進化は時代の変化に追いついていないと言われております。近視によって、さらに深刻な

病気のリスクが高まるおそれが指摘されています。

現在、文部科学省のホームページに、端末利用にあたっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレットが公表されています。児童用、生徒用として、それぞれにタブレットを使う時の5つの約束とともに、保護者用向けに家庭で気を付けていただきたいことが明記されています。日常生活においても睡眠時間の変化、眼精疲労、ドライアイや視力低下の有無など心身の状態についての状況把握を行い、児童生徒と保護者が各家庭で健康管理できるよう取り組むことが大切だと考えます。

以下について質問をいたします。

我が町の児童生徒における視力低下、目の障がいの割合はいかほどなのか。先天性の白内障、弱視、斜視等があり早期検診、予防が大事だと思います。学校より、本人、保護者へ電子機器に対しての健康被害への啓発はどのように行っているのか。答弁をよろしくお願いをいたします。

○教育長（松井）議長。

○議長（河野）松井教育長。

○教育長（松井）はい、議長。

○議長（河野）松井君。

○教育長（松井）十河議員のご質問の「子どもの眼の健康について」お答えいたします。

現在、小・中学校においては、GIGAスクール構想により1人1台パソコンが整備され、ICT教育の推進に鋭意取り組んでおり、わが町においても、授業における利用、家庭へのタブレットの持ち帰りなど、利活用の促進を研究、推進しておるところでございます。そんな中、利用にあたっての課題も多く、当初は、ネット依存や有害サイトの問題、近年では、情報モラル、情報リテラシー教育などの取り組みが急務となっているほか、十河議員ご指摘の、目の健康についても重要な課題であると認識しております。

本町の対応といたしましては、小中学校と教育委員会で組織する情報化推進委員会を開催し、ICT推進に対する問題を共有し、対応を進めており、その中で、2021年4月に文部科学省が作成した啓発リーフレットの内容を協議し、綾川町教育委員会として、児童生徒向けに「綾川町立学校タブレット端末活用のルール」、保護者向けに「持ち帰りタブレット端末家庭活用ガイドライン」を作成し、周知しております。また、保護者懇談や学期末などには、その時々々に国や県が発行する資料を配布しており、各学校においては、子どもたちに対し、「よい姿勢の取組」や「メディア使用の意識向上の取組」、PTAに対し、講演や学校保健委員会での研修による啓発など、ICT教育推進における視力低下を学校課題として、継続的な取組みも行っております。

また、2022年3月には文部科学省が作成しました「ICTを活用するためのガイドブック」が改訂され、その中では、眼の疲労、ドライアイ、近視の進行などに対する、教室の明るさの配慮、タブレットや電子黒板の光の反射の配慮、長時間まばたきなく画面を見続けられない配慮、姿勢や野外での活動の必要性などが方策として書かれております。

最新の2022年度の学校保健統計調査の結果は、まだ出ておりませんが、2021年度の統計では、町内児童生徒の視力1.0未満の割合は、全国の割合より小・中学校ともに若干少ない状況で、目の障害における割合も少ない状況でございます。また、割合の増減については、ここ5年間で、小学校は全国・町内ともに、年度による多少の上下はあるものの、横ばいの状況、中学校においては、全国的に増加傾向がある中、綾川中学校では横ばいを維持しております。

今後とも町としましては、統計調査や医学的な知見など、様々な情報収集を行い、対応を協議し、今後の時代に欠かせないICT教育の推進において、保護者の協力も得ながら、最大限子どもたちの健康に留意し、取り組んでまいります。

以上、十河茂広議員の答弁といたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○6番（十河）議長。

○議長（河野）十河君。

○6番（十河）はい、議長。

○議長（河野）十河君。

○6番（十河）細かい答弁の中に、様々、細かい配慮等々が感じることができました。本当にありがたいというふうに思っております。これから人生100年時代を迎える中でですね、目というのは大事な部分になってくるかなというふうには思っております。教育委員会がまた核となって、子育て支援、また健康福祉課としっかりまた横の連携をとっていただきながら、様々発達した検査機器も開発されていると聞いております。

早期発見が大事な部分だというふうに思っておりますので、早期発見に努めていただき、児童生徒の健やかな成長につながっていくことに期待したいと思っておりますし、さらなるお声掛け、子どもさんまたはPTAのお声掛けをよろしくお願ひしたいと思ひます。以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（河野）ありがとうございました。

○議長（河野）以上で十河君の一般質問を終わります。